

優秀賞

バァバの涙

千葉県 根木内中学校 三年
前原 杏海

私はバァバが嫌いだ。

なぜなら、毎月電話をしてきて、長い話をしてくるから。

それだけではなく、一度私の家に泊まりに来た際には、ずっと新聞ばかり読んで、私とはケンカばかりしていた。

私はその頃、反抗期だったこともあって、(バァバなんかいなくなればいい!)と、ずっと思っていた。

そんなバァバが、足を骨折して入院した。私と父と親戚は、バァバの病院にお見舞いに向かった。向かっている最中、私は、複雑な気持ちでいっぱいだった。バァバにあわせる顔がなく、窓から空を眺めながら、迷っていた。

病院に到着したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直接対面できず、病院の外のガラス越しで待っていると、遠くから、バァバと親戚の一人が、ゆっくりこちらに歩いてくるのが見えた。

そのとき、バァバが、ハンカチで何かをぬぐっていた。涙だ。

そしてバァバが、ガラスの側まで来たとき、「会えてよかった」と涙を浮かべながら、ガラス越しに何度も大声で言ってくれた。

父とバァバが話した後、

「もも、バァバと話しな。」

と父が言い、バァバと私の二人の空間になった。

「バァバ、体調大丈夫?」と聞くと、

「うん、ももちゃんに会えて嬉しいよ。」

私は、もらい泣きした。今までいろいろ迷惑をかけて、「いなくなればいい」とさえ思っていたのに、バァバはそんな私を心配し、感謝もしてくれていた。バァバが毎月電話をしてくれていたのは、私のことを大切に思っていたからなのだと、気づかされた。

あれから一年後、バァバは退院し、リハビリをしている。私はバァバに向けて毎月、手紙を書いて送っている。

そして、バァバも毎月電話をしてきて、少々ありがた迷惑なところもあるけれど、私も前よりは自分から話題を出して、会話をするようになった。

もし、コロナがなかったら、こんなできごともなかったし、コロナがあるからこそ、普段言えない感謝の気持ちや自分の思いを表すことができた。また、バァバのおかげで、将来は福祉関係の仕事に就きたいと目標を作ることができた。

もし大切な人と対面ができなくなったとき、あなたは自分の気持ちをどう表現するだろうか?